

暑中お見舞い申し上げます。 令和 7 年盛夏

水無月の梅雨空は、例年とは違う酷暑の到来となり、体調管理の重要さを感じる日々の連続となっています。このような状況下でも、皆様におかれましてはお元気で楽しくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

つきましては、平成30年にご参加の皆様と一緒しました“皇居東御苑の探訪！”のコースをあらためて再訪してみました。実は知り合いの「大楽さん」というおめでたいお名前の活発な女性の方が、フランス人と結婚され、そのご主人と来日され、日本文化の探訪を目的に、日本の諸処を訪れていますが、お二人は「江戸城再建プロジェクト」にも署名されているとのことで、それではと”東御苑“をご案内してみることにしました。

時は令和7年6月21日(土) 千代田線大手町 C3出口 午後2時スタート

最初に訪れたのは「将門塚」



訪れてみてちょっとビックリしました。それは、以前は鎮守の森のようにこんもりとした樹林のなかにお鎮まりいただいていたのですが、なんと綺麗に明るく、例えば慰霊碑のような所と思うような佇まいになっていました。
神田明神社のご祭神として祀られることから、全国的なファンがお詣りされているということであらためて思いました。

次に訪れたのは「和氣清麻呂」像です。

前回ご案内した時には、地下鉄東西線「竹橋駅」の工事中で、満足なご案内もできずの場所でした。

和氣清麻呂公の天平時代(760年代)は、聖武天皇から孝謙天皇(女帝)へ踐祚され、東大寺の大仏開眼も行われたように、ヤマト政権が全国支配の権力を強めてきつつあった時代です。しかし、孝謙天皇は病弱を理由に「淳仁天皇」に譲位し、自らは「上皇」となった。ここで、問題が発生。それは上皇が平癒の祈祷師「道鏡」僧正を寵愛し「法王」の位を与え、さらに「淳仁天皇」を廃帝とし、自ら重祚して「称徳天皇」となる。そして、次の天皇には「道鏡法王」を「天皇の御位」と画策する。

これに対し、朝廷は「和氣清麻呂」を「宇佐八幡宮」に派遣し「道鏡」阻止の神託を賜り、称徳天皇の薨去後、道鏡を失脚させ下野国石橋の薬師寺に左遷し、皇統の安泰に「和氣清麻呂」公は貢献したのである。





大奥の通用門「平川門」に通ずる「平川橋」です。その橋を飾る「**擬宝珠**」です。この「擬宝珠」に刻印されている年代は、400年前の慶長期、寛永期の文字が微かに読み取れる。

橋は珍しくも「木橋」で、昭和63年改架されたものという。お濠を眺めながらゆっくりと気持ちよく木橋の感触を味わいながら、重厚な「平川門」から江戸城へと入城していきます。



江戸城を再建しようとするプロジェクトが活動していました。案内人はニュースで報じられていましたので、少しは脳裏にありましたが、殆ど忘れていました。

しかし、フランスから来日された「大楽さんご夫妻」は「**賛成**」の署名をされているという。

予算は350億円で、NPO 法人を立ち上げ活動し、東御苑内の「売店と休憩所」の並びに建築された建物内に左の写真のようなレプリカを飾り説明担当者が常駐しているようです。

寛永 15年(1638)三代将軍家光公により 44, 84m の天守閣が築かれましたが、四代将軍家綱公時代の明暦3年(1657)の「振袖火事」で類焼し、「保科正之」の進言により、加賀前田家により建築された天守台が雄々しく存在している。それに**60m**の天守閣を建造するプロジェクトという。



二の丸庭園の広がる「菖蒲田」に美しく咲き誇る「菖蒲」です。案内板によれば、根株は明治神宮菖蒲田からのものという。

東御苑は、私の所属する「東京シティガイドクラブ」では、「**明治神宮**」「**浅草**」と並んで外人さんには「**観光の御三家**」と呼ばれています。6/21(土)の入苑者の9割は白人の方のような賑わいでした。気温は33℃でしたが緑風が心地よく感じられ喜んでいただけただけの一日でした。

完